

# 「緑字企業報告書 2016」に対する意見



金沢大学 地域創造学類  
准教授  
香坂 玲

今年度の報告書の特徴として、特集が環境教育の二つの活動を取り上げている。京都において、実際の田んぼで稲作体験や生物の多様性を五感を使って体験する「田んぼの学校」、そして開催地域の実情に合わせてごみの減らす方法を学ぶ「エコの学校」が紹介されている(P.9-12)。

実は歴代の緑字企業報告書の表紙は、「田んぼの学校」の参加者によって飾られている。お気づきではない読者は、改めて本書の最初のページの右下を御覧いただきたい(P.1)。「宝は田から」という社名にかけた標語と合わせ、象徴的で非常に重要な位置づけであることが分かる。

講義や研究において、私自身も環境教育という科目を担当しており、環境教育活動と、地域の行政やステークホルダーと連携する協働について研究をしてきたが、環境教育は単に大人から子供へと知識が教えられるわけではなく、子供を通して、その両親、祖父母などの意識や行動が変わっていくプロセスでもある。田んぼでの子供の感動や体験談が、例えば、そのまま夕食の場での対話を通じ、家族という単位での教育活動の源泉にもなっていく。

「持続可能性」やサステナビリティという言葉だが、資源を持続的に利活用するという側面とあわせて、次世代の教育や福利という側面も外せない。そのなかで次世代という言葉も、世界、国、地域で考えることも重要だが、「家族」という単位にも注目が集まっている。

また世界に目を向けてみると、日本政府の提案により、国連では2005～2014年の10年を国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」に定めて活動を実施してきた。2015年11月には、国内でESDに関するユネスコ世界会議が開催され、その更なる推進に向けた方策が話し合われた。

「田んぼの学校」、「エコの学校」と、複数の領域で教育活動を展開することで、座学だけではなく、ESDが目指すところである、家庭や地域で実際に行動を起こし、持続可能な社会の実践の担い手を育成しているともいえる。また例えば「田んぼの学校」では京都府、NPO、大学生、農家といったように、二つの学校とも社外の人々が多層的に連携していることも特色になっており、これもESDの精神を引き継いでいる(P.13)。

欲をいえば、田んぼの豊かさや楽しさと合わせて、直面する危機や負の側面についてもより明確に伝えるのも一案だろう。例えば、獣害被害などは酒米の産地である兵庫県や京都府も例外ではない。「田んぼの学校」においても獣害被害の深刻さ、廃れつつある農業関連の祭事を伝え、そこから次の世代ではどのような形にしていきたいのか、考えるきっかけにしてもらえたらと思う。

特集以外では、環境負荷削減として、CO<sub>2</sub>、廃棄物、用水量について、時系列で報告がなされている。今後も

このような定期的な報告と点検、施設面での効率化や更新が必要となろう(P.23-24)。改善傾向は見られるが、将来的には少量で小分けとなる消費傾向の高齢化社会の本格的な到来に備え、根本的な容器、エネルギーの対応も欠かせない。例えば、毎年の報告書を発刊することを契機に議論をしてはどうであろう。長期的な視野で長期的な環境負荷低減と資源制約のなかで、どのような社会を実現していこうとしているのか、原点に立ち返って幅広い部署で、成り行きではない、イノベーションや改善点がないか、本書を社内のコミュニケーションのツールとしても活用いただきたい。

さらに社員の多様性を確保するうえでも、女性、障がい者などが働きやすい配慮が必要であろう(P.31-33)。2014年に厚生労働省によって企業のストレスチェックと面接指導の実施が義務化されるなど、対処的な手法から、予防的な段階も含め、事業者は労働者のメンタルヘルスを含み健康や安全に配慮しなければならない傾向になってきている。将来的には、社員のための田んぼでの活動や森林セラピーへの展開も期待したい。

宝酒造には、今後も本業である自らの企業活動の実践を通し、次世代の持続可能な社会の担い手の育成を社員が誇りをもってリードすることを期待したい。その際には、地域のステークホルダーと幅広く連携しながら、次世代と協働してもらいたい。

## 編集方針

「緑字企業報告書2016」は、宝酒造のCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを、ステークホルダー(利害関係者)の皆様にわかりやすく誠実に報告することをめざして発行しています。

●対象組織:宝酒造株式会社単体の活動やデータを中心に報告しています。ただし、一部宝グループ企業の活動やデータを含みます。グループ企業を含むデータ部分については企業名を記載しています。

●対象期間:2015年4月1日~2016年3月31日  
注)上記の期間以外は年度を記載します。

●発行時期:2016年7月

## 編集後記

本報告書では、一企業市民として、社会のさまざまなステークホルダーの皆様との関わりをご報告しています。

本年度の特集では、当社の社会貢献活動に焦点をあて、“2つの環境教育活動~宝酒造「田んぼの学校」&宝酒造「エコの学校」~”と題して、次世代の子どもたちに自然保護や空容器問題の取り組みを伝える当社の環境教育プログラムを紹介しています。

今後もよりよい活動を進めていくために、皆様方からの当社の企業活動、環境活動に対するご意見をお待ちしています。よろしくご意見申し上げます。

## 編集体制

・編集委員会(広報部門、環境部門、総務部門、人事部門、事業管理部門、営業部門、商品開発・宣伝部門、購買・製造部門、海外事業部門、品質保証部門、お客様相談部門、宝ホールディングス株式会社IR部門 計15名)

・編集責任者:中尾雅幸(環境課長)

発行責任者:松本博久(環境広報部長)